

# 人と人 つながりの物語

コープデリグループの組合員数は約530万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。あなたの物語はどんな物語ですか。



illustration: Maiko Dake ※

めぐみさんが一生涯の友と思う人と出会えたのはコープの宅配のおかげだった。

彼女は栃木県出身、茨城県に引っ越してきたのは25年前、20代半ば、夫の司さんと結婚した頃だった。

「結婚を機に退職して、専業主婦になりました。アパート暮らしで、夫が会社に行ってしまうたら、友達もいなくて1人きり。節約が趣味で、いろいろなスーパーへ行ってここが安いとかチェックしていました。今思えば、寂しかったのかも」

ある日、コープの配達担当という女性が訪ねてきてこう言った。

「隣のアパートに住むお2人のところに毎週配達にきています。あと1人グループにいらつしゃると配達手数料が無料になるんです。よろしかったらコープの宅配をお試ししてみませんか？」

めぐみさんは、コープのトラックをよく見かけていた。コープって、どんなだろう？と気になってた。トラックの周りで主婦がワイワイ話しているのを見て、私もご近所づきあいたいな、と思ってた。

「試してみることにして隣のアパートの奥さんたちと知り合っただんです。そのうちの1人が陽子ちゃんでした」

めぐみさんは、コープの商品に質の良さを感じた。2人に「こ

れはこう調理するとおいしい」と、すすめられて好きになった商品もあった。金曜日の午後、コープのトラックが来るのを楽しみに待つ生活が始まった。

.....§.....

「仲間に入れてもらって親切にしてもらいました。特に陽子ちゃんとは気が合って、すごく明るい子で人懐っこくてかわいらしくて、よくうちに遊びに来るようになったんです」

手芸や帽子などを手作りするのが好きだった陽子さんは、日曜大工でなんでも作ってしまう司さんとも話が合って、アパートへ遊びに来てはいろいろな話を話した。

「私の方が年上だから教えることもあったし、陽子ちゃんに教わることもありました。節約の情報交換もしました」

数年後、先に陽子さんが引っ越して、翌年めぐみさんも同じ町内の現在暮らす家に引っ越した。

家族が増えていくタイミングだった。陽子さんは現在、千葉県内で暮らしている。同じ時期に子どもを持ち、家も遠くになったが、ずっと大切な友達であることには変わりない。

「引っ越してからは頻繁には会えていないのですが、離乳食のことや子育てのこと、なんでも相談しました。子どもを2人産

んでママ友もできたけれど、ママ友ってけっこう気遣いが必要なんです。純粹にうれしかった子どもの成長も、そのまま言う人によっては自慢のように捉えられてしまったり、このことは言っても大丈夫かなとか、考えてしまう。でも陽子ちゃんにはなんでも言えました。うれしいことは共に喜び、悩みには一緒に悩めました。こういう付き合い方が今もできているんです」

めぐみさんは家にやって来たコープの職員の名前は覚えていない。けれども彼女のおかげで陽子ちゃんと友達になれたと、声をかけてもらったことに感謝している。

「コープの商品で育った娘たちは、もうそれぞれ1人暮らしをしています。今でも『ドレッシングはコープのじゃなくちゃいや』とか、『ウインナーはコープのがいい』って言ってます」とめぐみさん。年を取るにつれ出会いの数が減っていく。大人になってできた友達は、なんだか特別だ。

出会いが、人生に彩りをもたらす。めぐみさんの人生がそのいい実例である。

※……当時のトラックをイメージしています

過去の物語も  
こちらから読めます



あなたのエピソードを  
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便(〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛)か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。